

独立行政法人地域医療機能推進機構

第6回 二本松病院地域協議会

議 事 録

日時：平成29年2月9日（木）19時15分～20時30分

場所：病院会議室

出席者 三浦 一弘（二本松市市民部部長）
佐藤 正弘（二本松市福祉部部長）
菊地 昇（安達地方広域行政組合消防本部警防課長）
安齋 英雄（二本松市社会福祉協議会会長）
土川 研也（安達医師会会長・二本松病院地域協議会委員長）
斎藤 浩樹（医療法人静心会 斎藤医院院長・二本松病院地域協議会副委員長）
藤田 俊徳（二本松薬剤師会会長）
矢吹 孝三（二本松市民生児童委員協議会会長）
吉野 正昭（二本松市岳下区長会副会長）
欠席者 遠藤 幸男（福島県北保健福祉事務所所長）
病院 六角院長・柳沼副院長・大類事務長・佐藤総看護師長・安齋薬剤科長・
佐野副総看護師長（欠席）・村田事務長補佐・安部係長・後藤係長（書記）

議事内容（大類事務長進行）

・協議会次第にそって

1. 開会

2. 院長挨拶

本日は、お忙しいところ第6回の二本松病院地域協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

平成26年4月に、地域医療機能推進機構二本松病院として新たな組織としてスタートしてからまもなく3年が経過しようとしております。

病院本体をはじめとし、健康管理センター、附属老人介護保健施設、訪問看護ステーション等を3年間運営出来たのは、地域の皆様方のご支援・ご協力の賜物と、この場を

お借りして厚く御礼申し上げます。

JCHO二本松病院の名称も一部の皆様には認識いただいておりますが、まだ認知度は市民権を得るまでは浸透していないように思います。

皆様のご期待に添える公設公営の公的病院として、これからも良質で満足のいく医療を提供するため、職員一同努力し、地域の医療機関を目指して参ります。

東日本大震災以後大きく減少していた福島県内の医師は、数字では震災前を上回る数とはなりましたが、地域や病院規模による医師の偏在は解消しておらず、当院のような中小規模病院にとってはまだまだ医師不足が続いており、一番の課題となっております。

常勤医師がなかなか確保出来ない状況ではありますが、福島県立医大や、各方面からの協力を得ながら、非常勤医師・診療援助医師を加え、何とか必要医師数については確保して、地域住民のニーズに答えるべく、行政、医療機関、介護支援事業所などと連携を取りながら医療・介護の向上を図っております。

10月に、二本松市の委託を受け、新たに「産後ケアセンター」を開設し、市外の分娩施設で出産のされた方を対象に当院助産師による母子の健康状態の確認、育児相談などの専門的な支援を開始いたしました。

また、本年2月に、二本松病院附属訪問看護ステーション東和サテライトを市内針道に開設し、東和・岩代地域の拠点として活動を開始しました。

平成29年4月から二本松第一中学校の学区内を範囲として受託し業務を開始する「地域包括支援センター」については、現在二本松市と調整を行っているところでございます。

本日は、平成28年度の病院運営について、健診部門、老健施設、訪問看護等の状況を併せ、ご報告させていただきます。より良い病院目指していくために、忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

3、委員の紹介

4. 議事（土川安達医師会会長進行）

大類事務長より二本松病院地域協議会資料に添って説明

- 1、入院、外来患者数状況について
- 2、救急車受け入れ状況・産後ケア実施件数について
- 3、訪問看護／訪問リハビリテーションの状況について

4、老健・月別入通所者状況について

5、平成28年12月分収支状況及び12月決算概要について

～質疑応答～

：安達医師会土川会長

入院患者さんが減っているというのは基本的な流れからいうと人口が減っても老人の数は増えるように動くと思うんですが、入院の需要が減っているのか病院対応のキャパが減っているのか、いずれかわかりますか。

：六角院長

いろんな理由があると思いますが、高度な医療を求め都市部の300床400床の病院に流れたりしますし、常勤医師数不足の影響もあります。医師不足はJCHOになってから続いていることです。

：土川会長

国の方針が在宅へという流れになっていて地域医療構想でも動いていく様子なんですが訪問看護の依頼というのは主にどこからの依頼で動いているのでしょうか

：六角院長

市内の開業医や他の病院など一つのところだけではなく広い範囲で依頼を受けています。

：土川会長

入院患者さんが減って訪問看護が若干増えているのは動きが表れているということですね。安達医師会は先生方の年齢アップもあり、なかなかマンパワーで在宅医療を今後展開する先生はいないのかなと思います。その為今後は病院での看取りや病院に療養病床を増やして頂くしかないのかもしれませんが。今後在宅の需要が増えたらどうしますか。

：六角院長

受け入れるよう頑張ります。

：土川会長

次に保健予防活動の施設がん健診はこの先需要が益々増える事業ですね。

: 二本松市社会福祉協議会安齋会長

先日会社の健康診断で病院さんにお世話になりました。今回より健診会場が病院本館に移りましたが、各所に案内の方がおり、テキパキと誘導してくれましたので、早く終了することが出来て良かったです。反対に健診センターの実施月資料を見ますとだいぶ月によってばらつきがありますが、このように違うのはなぜでしょうか。

: 六角院長

季節の差はあります。年度当初は申込みが多いし寒い時期は少ないです。平均化しようと試みましたが、企業の希望月もありますので難しいようです。

: 安齋会長

今までの健診月を一カ月ずらして実施するなどしてバラツキを減らしてはどうでしょうか。

: 六角院長

検討します。ありがとうございます。

: 土川会長

市の施設健診のスタートが8月からです。12月までという取り決めがありましてそこに集中せざるを得ない状況です。そこに協会けんぽの健診が上乘せされます。6月から実施するには、意向調査等のやり取りがあり間に合いませんが、来年度は2月いっぱい、3月中には終わらせるとしましたので少しはバランスも良くなるのかもしれませんが、申込みを断ることはなくなると思います。

: 土川会長

次に救急車の依頼で、病院さんはベットが満床なので断るケースはあるのでしょうか。

: 六角院長

満床で断ることはありません。

: 土川会長

先ほどお話した人口減少は二本松市さんでは何か対策を講じていますか。

: 二本松市市民部三浦部長

震災以降は減少しています。人口減少対策を去年の4月からいろいろやっております、定住促進の為の対策としまして家を市外からきて建てれば補助が出ますし、県も 29

年度からそれに上乗せしています。そのため人口減少の幅のブレーキはかかるのではないかと思います、その効果が出るのは少し時間がかかります。

: 土川会長

若い方が戻って来る流れが見えると子育て支援も必要になるのかと思いますが、

: 二本松市福祉部佐藤部長

定住策として人口減少に歯止めをかけ若い人達に住んで頂く為には子供さん達をどのように育てていくかがとても大事なところですが。しかし現状は働きたいのに保育所に入れない、核家族が進んで親と住んでいない等あり、その解消の為には色々政策を展開しているところですので、現在保育所を建設中です。市だけでは対応出来ず民間の方のお力を借りて今進めさせて頂いています。

: 土川会長

そのほか、何かありますか

: 大類事務長

別紙資料について説明

- ・二本松病院概況書
- ・あゆみ 12月号・1月号（病院広報誌）
- ・JCHOニュース冬号
- ・花かすみ新春号（老健広報誌）
- ・二本松病院地域連携室だより
- ・二本松病院訪問看護・東和サテライトちらし
- ・東和サテライト開所式・新聞報道のコピー

: 土川会長

議事につきましては、これで終わります。

5、意見交換

: 大類事務長

ご意見を頂戴したいと思います。

: 安達地方広域行政組合消防本部菊地警防課長

救急車受け入れについてご報告させて頂きます。平成 28 年の 1 年間 3,850 件の救急発

動がありました。人員は 3,606 人、そのうち 1,219 人の方が管外に搬送です。二本松病院さんは、昨年 1 年間 3,606 人のうち 641 人が搬送されました。率にしますと 17.8%です。

また病院さんには昨年より救急救命士の研修を受け入れて頂きありがとうございました。今年 2 月からも引き続き研修の方お世話になります。どうぞよろしく願いいたします。

: 三浦部長

前回の春の地域協議会での席で何か医療機関の診療科を含めたPRが出来ないかのご意見があり、市では安達医師会さんのご協力を頂き「二本松市医療マップ」を作成しまして、2月1日全世帯に配布しました。市内の病院、医院・診療所、歯科医院の所在地及び診療科を取りまとめました。いろいろ皆様からご提案があれば今後も進めてまいりご協力を賜りますのでよろしく願いいたします。

6、閉会のあいさつ

佐藤総看護師長

閉会の挨拶の前に私事ですが、この3月31日を持ちまして定年退職となります。地域の皆様には大変お世話になりありがとうございました。

今後ともJCHO二本松病院、地域の為に益々頑張る所存でおりますので、これからも地域の皆様のお力添え何卒よろしくお願い致します。

では今日の地域協議会これを持ちまして終了させて頂きます。遅くまでありがとうございました。